

3. 水 世界の水事情 プログラム ②

室内

安全な水が飲めるのは？

ねらい

水汲みを行う子どもの映像を見て、感じたことを自由に発言することで、国によって水との関わり方が違うことに気づき、貧困、教育、衛生問題など、世界の様々な水問題について考える。

問いかけの例

※映像からどう感じるかを重視するため、問いかけは行わない。

| 手 順 | 内 容 |
|------|--|
| 導 入 | <ul style="list-style-type: none"> ・受講者への問いかけを行わず、始めに映像を見てもらう。 |
| 展 開 | <ul style="list-style-type: none"> ・映像を見る。ワークシート①にメモをとる。 ・映像から感じたこと、疑問に思ったこと、考えたことを自由に発言してもらう。 ・ワークシート②のぬりえを、各自で凡例の色に合わせて塗ってもらう。 ・映像から気づいてほしいポイントについて説明する。 |
| 振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート①の、「考えてみよう」を行う。 ・プログラムを経験して、私たちができることを考え、意見・感想を聞く。 |

| | |
|------------------|--|
| 準備するもの (☑で確認) | <input type="checkbox"/> ワークシート①② (コピー) <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> 色えんぴつ <input type="checkbox"/> インターネットの映像が見られる環境 |
|------------------|--|



©UNICEF Video 提供：(公財)日本ユニセフ協会

水

ワークシート①

（コピーして使ってください）

映像を見よう

映像を見て、どう感じましたか？（自由記入欄）

映像を見て感じたことを発表して、みんなと共有しよう。



水

世界の水事情を考えよう

●ワークシート②の世界地図を、凡例の色に合わせてぬりましょう。

考えてみよう

他の国の子どもと私たちの水の関わりには、どのような違いがありますか？

アイシャと私たちの暮らしには、どのような違いがありますか？

もっと知りたい

日本ユニセフ協会 HP



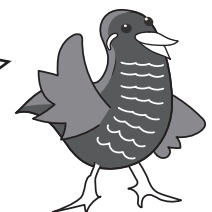
持続可能な開発目標 (SDGs)



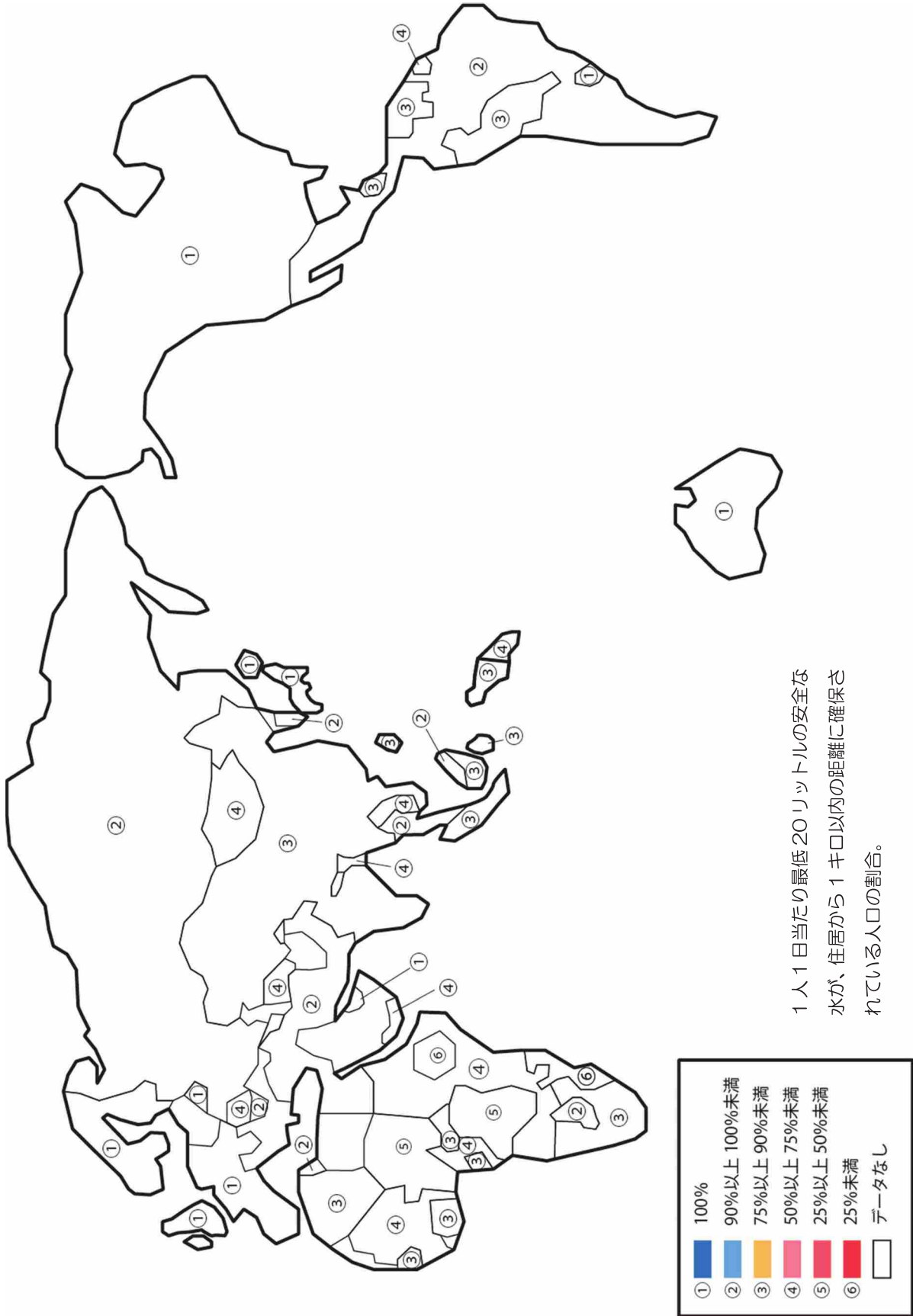
13歳のアイシャの1日 (動画)



「SDGs」って何だろう？調べてみよう。



世界の水事情（めりえ）



（参考：JICA 安全な水資源を利用できる人口の割合）



講師用資料①

ワークシート①回答例

<ポイント>

- 答えを誘導せず、参加者に自由な意見を持ってもらい、参加者どうして意見を交換する時間を設ける。
- なぜそう考えたか、どう思うかを問い、考える時間を与える。
- 「気づいてほしいポイント」（講師用資料③）の内容について、参加者から発言がなければ講師が示してあげる。

例)・世界で、安全な水が飲める地域と飲めない地域。(ワークシート② ぬりえ)
 ・水までアクセスする時間を計り、アイシャとの違いを認識する。(ストップウォッチ)
 ・水のある場所までの距離を推測する。(距離の計算)
 ・一日のスケジュールを比較する。(円グラフ)

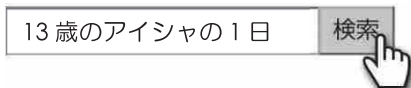
☆プログラムの進め方☆

①映像を見る。

②参加者に映像から感じたことを自由に述べてもらう。

●参考映像：「13歳のアイシャの1日～水を得るために～/日本ユニセフ協会」

<https://www.youtube.com/watch?v=PP0IvKmlFRY>



©UNICEF Video 提供：(公財)日本ユニセフ協会

●映像概要：

「アイシャの1日」エチオピア・13歳の少女



アイシャが水汲みに費やす時間は毎日8時間—
 朝早くから夕方近くまで、炎天下の砂漠を一日中歩いて家族のために水を汲むアイシャ。それでも手に入るのは、1人あたりわずか5リットル未満の茶色い水だけです。近くに井戸ができれば、アイシャの人生は変わります。

世界中の女の子や女性たちが水汲みに費やす
 1日当たりの時間の総計
 =2億時間



引用：(公財)日本ユニセフ協会 HP <https://www.unicef.or.jp/special/17sum/>

講師用資料②

映像を見よう

映像を見て、どう感じましたか？（自由記入欄）

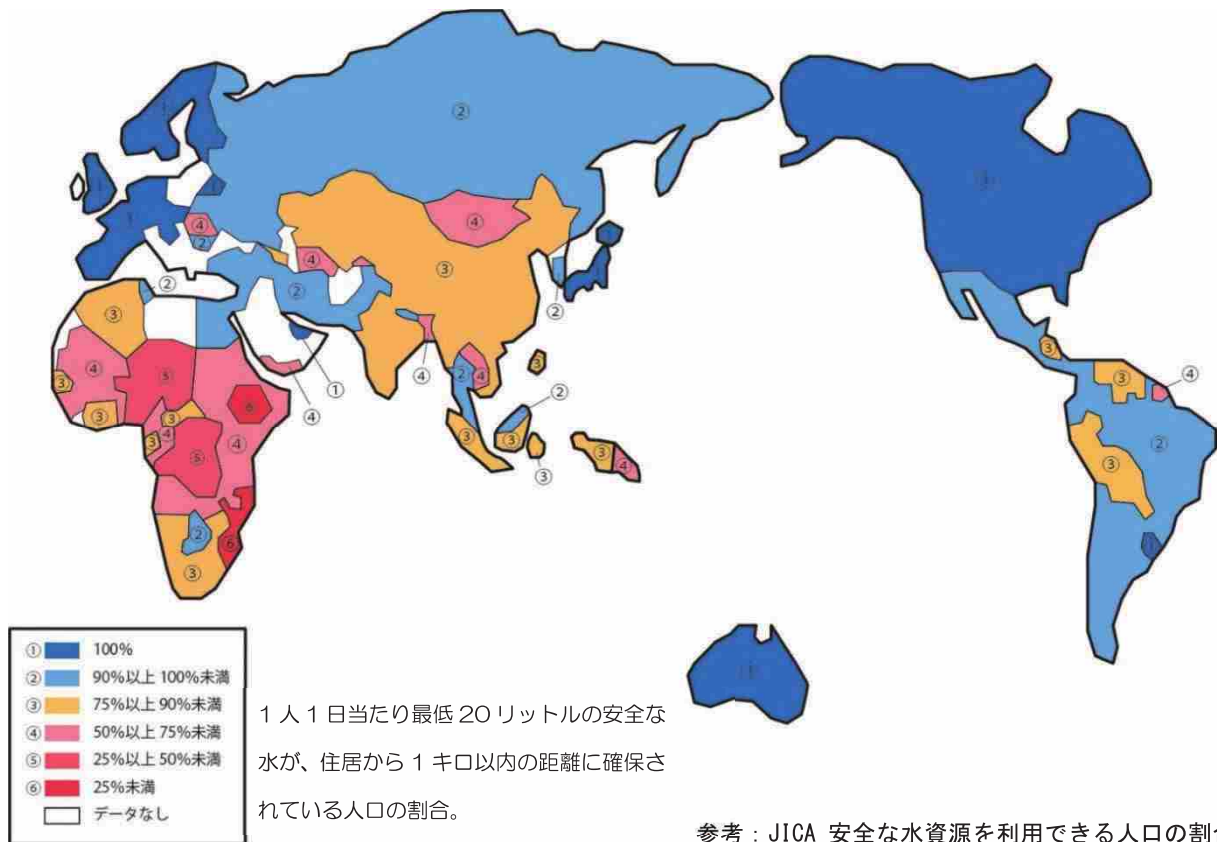
※映像を見たあとに、みんなが自由に発言出来る時間を設ける。

世界の水事情を考えよう

ぬりえからわかること

- ・世界の中で「安全な水が飲める地域」と「飲めない地域」。
- ・1人1日当たり最低20リットルの安全な水が住居から1キロ以内の距離に確保されている人口の割合。
- ・アイシャがいるところはエチオピアであり、この地域の1人1日当たり最低20リットルの安全な水が住居から1キロ以内の距離に確保されている人口の割合は25%未満である。

回答例)



水

考えてみよう

他の国の子どもと私たちの水の関わりには、どのような違いがありますか？

※発表や気づいてほしいポイント①、②（次ページ）から、気づいたことを書く。

アイシャと私たちの暮らしには、どのような違いがありますか？

※1日のスケジュール、1日の活動内容を比較して、教育の機会が奪われていることに気づかせる。（次ページ 気づいてほしいポイント③）

講師用資料③

☆気づいてほしいポイント☆

- ①私たちがコップに水を持ってくる時間を計り、アイシャの水汲みにかかる時間と比較する。
（ストップウォッチで計る）

会話例

アイシャは水汲みに8時間かけていましたね。では、私たちは水を得るためにどのくらいの時間がかかるでしょうか？〇〇さん、このコップに水を持ってきてください。よーい、スタート！（ストップウォッチで計る）

ありがとうございます。〇〇さんが水を持ってくる時間は〇分〇〇秒でした。アイシャは8時間かかりますが、私たちはほんの数分でしたね。ではなぜ私たちは数分で水を得ることが出来るのでしょうか？考えてみてください。

- ②私たちの水を得ることが出来る場所までの距離とアイシャの水の汲むことが出来る場所までの距離を比較する。（距離の計算）

アイシャの水汲み場所までの計算例

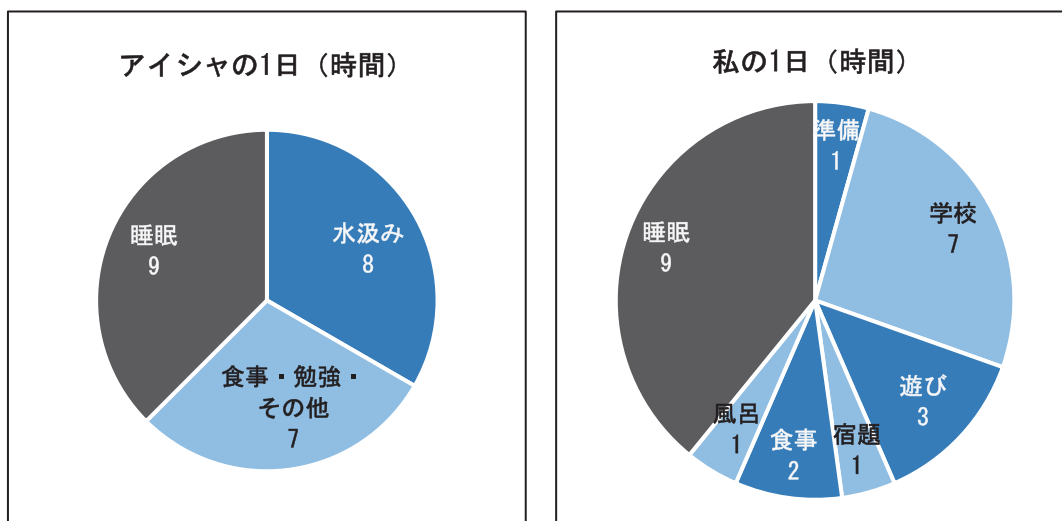
1km 当たり 20 分で歩いたとすると、アイシャが水のある場所にたどり着くまでの距離は
往復 8 時間 → 片道 4 時間
 $240 \text{分} (4 \text{時間}) \div 20 \text{分}/1\text{km} = \underline{12\text{km}}$

- ③一日のスケジュールを比較する。（円グラフ）

それぞれ、何にどのくらいの時間を使っているか見てみる。

→水汲みを行うことにより教育の機会が奪われていることに気づく。

円グラフ例)



☆参考☆

- 公益財団法人 日本ユニセフ協会 <https://www.unicef.or.jp/>
- 「持続可能な開発目標」副教材ポータルサイト <https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/>
- 参考映像「13歳のアイシャの1日～水を得るために～/日本ユニセフ協会」